

# 西秩父再発見

2006年10月19日 風も無い秋晴れの日 晴れ  
小鹿野町町民体育館 午前9時30分 現地集合  
案内していただいた方 小鹿野町教育委員会社会教育課 主幹山本正実氏  
ガイド時間 9時30分~16時40分

- ① 小鹿野町般若 札所三二番般若山法性寺  
町指定文化財「観音堂」  
県指定文化財「長享二年秩父札所番付」
- ② 小鹿野町般若 れんげ庵（現代水墨画 今岡琴子さんギャラリー）
- ③ 小鹿野町両神小森 鳳鳴館
- ④ 両神小森 諏訪の森記念館（諏訪神社境内歌舞伎舞台）
- ⑤ 小鹿野町日尾 倉尾ふるさと館（合角ダム水没地域総合調査資料展示）
- ⑥ 秩父市下吉田 市指定文化財「板東彦五郎の墓」
- ⑦ 小鹿野町 小鹿野総合センター（小鹿野町収集歴史・民族資料）



①【小鹿野町般若 札所三二番般若山法性寺】  
【町指定文化財「観音堂」】

長若小学校の前を通り過ぎて、二股を右にゆくとまもなく法性寺の山門に着く。

山門をくぐって急な石段を登ると手入れの行き届いた境内にでる。

ここで住職の話の聞くことができた。

法性寺は山号を般若山というが、観音堂を訪れた僧が一夜にして大般若経を書写したという伝説に基づく。江戸中期、曹洞宗に改宗されたが、それ以前は密教系の寺と伝える。山門は鐘楼門と呼ばれ、宝永7年（1710）の建立で1階に仁王像を安置し2階に鐘を吊る珍しい建築である。

本堂は薬師如来を本尊とし、長享2年、秩父札所番付、木造蔵王権現像、室町時代の大般若経など貴重な寺宝が多い。

宝永4年（1707）建立の観音堂は懸造りの建築で、奥の院のお船の巨岩とあわせて、荘厳な雰囲気を持つ札所である。

本堂に案内されて中にはいるとまず、そこから見えるすばらしい庭園のたたずまいが目に入ってきた。うっそうとした木々に囲まれた庭園と、上に見える観音堂の景色は一見の価値がある。ここでは寺秘蔵の「長享二年秩父札所番付」の話も聞くことができた。



【 県指定文化財

「長享二年秩父札所番付」】

（縦24.5cm 横101.8cm）

秩父札所巡りが始められた時期は定かではないが、この番付は長享2年（1488）の日付があり、室町時代に既に33カ所の札所が設けられていたことを物語っている。当時の札所一番は、現在の札所一七番、定林寺（秩父市内）で、順序が大きく異なり、札所の成立時には秩父大宮郷を中心に順路が定められていたと思われる。江戸時代に入り、江戸からの巡礼者が多くなってくると、現在の四万部寺を一番とする順路に変えられたものであり、札所も一カ所追加され、34か所となった。





②小鹿野町般若 れんげ庵（現代水墨画 今岡琴子さんギャラリー）

法性寺の山門を左に出てすぐ案内看板に従って細い道を下り、かにがいそうな小さな沢に架かった橋を渡ると古い農家の建物が見えてくる。現代水墨画家、今岡琴子さんのギャラリー、れんげ庵だ。

ここは今岡さんが、囲炉裏、薪ストーブ、黒光りする大黒柱のある古民家を借り、2階の養蚕室をそのままギャラリーにしたものだ。

入庵料300円（お茶付き）を払って中にはいると今岡さんの作品がセンス良く展示されている。細い階段を上がって2階に行くと、今岡さんの代表作である浄瑠璃の水墨画が展示されており、その迫力に圧倒される。

定休日は月・火・水・第1・3日曜日となっているので要チェック。



③小鹿野町両神小森 神怡館 鳳鳴館

法性寺を後に、古い町並みが残る小鹿野の商店街を過ぎて三峯方面に向かうと間もなく国民宿舎両神荘の看板が見えてくる。ここを左折してすぐにあるのが神怡館、鳳鳴館だ。埼玉県山西省友好記念館となっている神怡館は唐代の五台山の寺をモデルとし、山西省側が基本設計したもので、内部は、面積729平方メートルの広大なスペースで、山西省の歴史や文化、民族などの貴重な文物を展示、ビデオ映写も行われている。





④両神小森 諏訪の森記念館（諏訪神社境内歌舞伎舞台）

神怡館から三峯方面に進み、途中を右折して細い道を行くと、こんもりとした杉木立が見えてくる。諏訪神社の鎮守の森だ。ここは小森のお諏訪様として多くの村民から親しまれている。

10月14日の祭礼には、享保年間から始められたという花火が打ち上げられる。この花火は地元の人たちが自分たちで揚げるという物であり知られてないが、山本さん曰く、もったいないくらい素晴らしいそうだ。



⑤小鹿野町日尾 倉尾ふるさと館（合角ダム水没地域総合調査資料展示）

合角ダムを過ぎダム湖に沿った道を行くと、間もなく左手に見えてくる建物が案内をいただいた山本さんのライフワークのひとつといえる展示館、倉尾ふるさと館（合角ダム水没地域総合調査資料展示）

平成10年より試験湛水を開始した埼玉県営合角ダムの湖畔に、農林産加工物工場、休憩所、展示場を兼ね備えた施設として平成11年11月11日に完成した。

【展示構成】

メインテーマ「地図から消えた村の記録

——水源の村の自然と文化——

- (1) シンボル展示——運ばれてきた宝物——  
注口土器及び収納石器
- (2) 地理——山と川の狭間——  
水没地域位置図・土地利用図
- (3) 自然——大地の成り立ち——



地質図・岩石・化石・植物・動物

(4) 考古——最初の縄文人達——

水没地域遺跡分布図・・・合角川入岩陰遺跡・下平遺跡・塚越向山遺跡蚕と秩父事件

(5) 歴史——閉村——

日尾城と戦国時代・江戸時代の古文書・養

(6) 民族——森を育てる——

手仕事・背負い運搬具の製作工程・年中行事と祭り・地芝居

(7) 天狗岩を科学する

⑥秩父市下吉田 市指定文化財「板東彦五郎の墓」

秩父地方で伝承されている歌舞伎の創始者、初代板東彦五郎は江戸時代の文化・文政期（1804～1829）に江戸で歌舞伎を学び、帰郷後、地元の若者達に歌舞伎を伝えた。その芸は弟子達に引き継がれ、現在の小鹿野歌舞伎保存会や秩父歌舞伎「正和会」などに発展した。その彦五郎の業績をたたえ、地元の歌舞伎関係者が中心となりこの碑を建立した。



⑦小鹿野町 小鹿野総合センター（小鹿野町収集歴史・民族資料）

小鹿野町と秩父市にまたがる県営合角ダムの建設に伴い行われた。

水没地域発掘調査（1988～99）で出土した縄文時代の土器・石器を中心に約250点が納められている。この中には塚越向山遺跡から出土した縄文時代中期の「注口（ちゅうこう）土器と収納石器」（県指定有形文化財）も納められている。

矢じりやナイフなどの石器の材料として使われた黒曜石の塊、期を削る石斧10本などが土器の中に収納されたまま出土した物で、いわば縄文人の「宝物」だ。全国でも珍しい出土例という。

